

Y10b 立体 HR 図の作成

宮崎恵、矢動丸泰、豊増伸治、小澤友彦（紀美野町みさと天文台 / 和歌山大学）、富田晃彦、佐藤奈穂子、尾久土正己（和歌山大学）

和歌山県紀美野町にあるみさと天文台には、立体投影の設備がある。天文台では、立体映像ならではの臨場感を活かしてさまざまなコンテンツを作成してきた。今回我々は、映像に臨場感をもたせる目的ではなく、科学的知見の理解を深めるという新たな活用方法で教育コンテンツを作成した。

具体的には、HR 図に距離の軸を加えた 3 次元の図である。絶対等級により星の拡がりに違いが出てくることを示した。例えば主系列星において、赤い星は近くにしか見えないが数が多く、青い星は遠くまで見えるが数が少ない、ということが一目でわかる。さらに、距離を視線軸で表すことで感覚的に距離の違いが理解できるようにした。また、コンテンツの作成には Microsoft Excel を用いた。立体コンテンツを身近なソフトで作成することができる、ひとつの例を示したことになる。なお、データには、The Hipparcos and Tycho Catalogues(1997) を用いた。

今回の発表では、以上について報告するとともに実際の図をご覧頂く。